

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)知立寮計画	階数	地上11階
建設地	愛知県知立市堀切二丁目23番、24番	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域、準防火地域	平均居住人員	98人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年2月 予定	評価の実施日	2018年10月23日
敷地面積	1,970 m ²	作成者	三輪
建築面積	415 m ²	確認日	2018年10月23日
延床面積	3,546 m ²	確認者	三輪



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.4 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	65%
③上記+②以外の	65%
④上記+	65%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

音環境	3.0
温熱環境	2.9
光・視環境	3.1
空気質環境	3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

機能性	4.3
耐用性	3.0
対応性	3.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.8

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性・	3.6

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

建物外皮の	4.0
自然エネ	3.0
設備システ	5.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

水資源	3.0
非再生材料の	2.7
汚染物質	2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

地球温暖化	4.3
地域環境	3.0
周辺環境	3.0

3 重点項目

①地球温暖化への配慮

4.3

③敷地内の緑化

2.0

外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	67.1 %
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %

②資源の有効活用

2.8

④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料>

なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>

なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							建物全体・共用部		居住・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体	
		Q 建築物の環境品質													
Q1 室内環境														3.1	
1 音環境														3.0	
1.1 室内騒音レベル														3.0	
1.2 遮音														3.0	
1 開口部遮音性能														3.0	
2 界壁遮音性能														3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														3.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														3.0	
1.3 吸音														-	
2 温熱環境														2.9	
2.1 室温制御														3.0	
1 室温														3.0	
2 外皮性能														3.0	
3 ゾーン別制御性														-	
2.2 湿度制御														3.0	
2.3 空調方式														3.0	
3 光・視環境														3.1	
3.1 昼光利用														3.0	
1 昼光率														3.0	
2 方位別開口														-	
3 昼光利用設備														3.0	
3.2 グレア対策														3.0	
1 昼光制御														3.0	
3.3 照度														3.0	
3.4 照明制御														1.0	
4 空気質環境														3.6	
4.1 発生源対策														4.0	
1 化学汚染物質														4.0	
F☆☆☆☆を全面的に使用														4.0	
4.2 換気														3.0	
1 換気量														3.0	
2 自然換気性能														-	
3 取り入れ外気への配慮														3.0	
4.3 運用管理														-	
1 CO ₂ の監視														-	
2 喫煙の制御														-	
Q2 サービス性能														3.6	
1 機能性														4.3	
1.1 機能性・使いやすさ														3.0	
1 広さ・収納性														3.0	
2 高度情報通信設備対応														5.0	
Gbitクラスのブロードバンドが利用可能なLANケーブルを設置														5.0	
3 バリアフリー計画														3.0	
1.2 心理性・快適性														5.0	
1 広さ感・景観 (天井高)														-	
2 リフレッシュスペース														3.0	
3 内装計画														5.0	
共用部において間接照明等を利用して内装演出に配慮														4.0	
1.3 維持管理														4.0	
1 維持管理に配慮した設計														4.0	
維持管理に配慮した仕上材の選定														4.0	
2 維持管理用機能の確保														4.0	
清掃用資材保管スペースを適切に確保し、メンテナンスに配慮														0.50	
2 耐用性・信頼性														3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振														3.0	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0	
2 免震・制震・制振性能														3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数														3.0	
1 躯体材料の耐用年数														3.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														3.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														4.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														3.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0	
2.4 信頼性														3.2	
1 空調・換気設備														3.0	
2 給排水・衛生設備														3.0	
3 電気設備														3.0	
4 機械・配管支持方法														4.0	
耐震クラスAの支持方法にて取付														4.0	
5 通信・情報設備														3.0	

3 対応性・更新性					3.0	0.29	3.3	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり					-	-	3.6	3.6	-	0.50
1 階高のゆとり			階高2.9m以上確保		-	-		4.0	-	0.60
2 空間の形状・自由さ					-	-		3.0	-	0.40
3.2 荷重のゆとり					-	-		3.0	-	0.50
3.3 設備の更新性					3.0	1.00				-
1 空調配管の更新性		②			3.0	0.17				-
2 給排水管の更新性					3.0	0.17				-
3 電気配線の更新性					3.0	0.11				-
4 通信配線の更新性					3.0	0.11				-
5 設備機器の更新性					3.0	0.22				-
6 バックアップスペースの確保					3.0	0.22				-
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30				2.8
1 生物環境の保全と創出		独自③			2.0	0.30				2.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④			3.0	0.40				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.5	0.30				3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			3.0	0.50				-
3.2 敷地内温熱環境の向上			緑地等の空地を多く設けた		4.0	0.50				-
LR 建築物の環境負荷低減性										3.4
LR1 エネルギー					-	0.40				4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			断熱性能等級4相当		4.0	0.33				4.0
2 自然エネルギー利用					3.0	0.17				3.0
3 設備システムの高効率化			BEI[BEIm] = 0.69		5.0	0.33				5.0
4 効率的運用					3.0	0.17				3.0
集合住宅以外の評価					-	-				-
4.1 モニタリング					-	-				-
4.2 運用管理体制					-	-				-
集合住宅の評価					3.0	1.00				-
4.1 モニタリング					3.0	0.50				-
4.2 運用管理体制					3.0	0.50				-
LR2 資源・マテリアル					-	0.30				2.8
1 水資源保護					3.0	0.15				3.0
1.1 節水					3.0	0.40				-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60				-
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	1.00				-
2 雑排水等利用システム導入の有無					-	-				-
2 非再生性資源の使用量削減					2.7	0.63				2.7
2.1 材料使用量の削減					2.0	0.07				-
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24				-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自	-		3.0	0.20				-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			-		1.0	0.20				-
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	0.05				-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	壁下地をLGS+PBとして分割可能な計画		4.0	0.24				-
3 汚染物質含有材料の使用回避					2.7	0.22				2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32				-
3.2 フロン・ハロンの回避					2.6	0.68				-
1 消火剤					2.0	0.33				-
2 発泡剤(断熱材等)					3.0	0.33				-
3 冷媒					3.0	0.33				-
LR3 敷地外環境					-	0.30				3.4
1 地球温暖化への配慮		①	LCCO2排出率67%		4.3	0.33				4.3
2 地域環境への配慮					3.0	0.33				3.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25				-
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50				-
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25				-
1 雨水排水負荷低減		独自			3.0	0.25				-
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25				-
3 交通負荷抑制		独自			3.0	0.25				-
4 廃棄物処理負荷抑制					3.0	0.25				-
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33				3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40				-
1 騒音		独自			3.0	1.00				-
2 振動		独自			-	-				-
3 悪臭					-	-				-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40				-
1 風害の抑制					3.0	0.70				-
2 砂塵の抑制					-	-				-
3 日照障害の抑制					3.0	0.30				-
3.3 光害の抑制					3.0	0.20				-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					3.0	0.70				-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30				-

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.3	0.10	
② 資源の有効活用				2.8
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:67.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	安定感のあるシンプルな外観とし、落ち着いた印象とする。
Q1 室内環境	快適な住空間となるよう配慮 住戸サッシには、複層ガラスを採用
Q2 サービス性能	高効率設備機器の採用 配管支持方法:耐震クラスA 品確法:劣化対策等級3取得予定
Q3 室外環境(敷地内)	境界際も積極的に緑化し、近隣・街並みにも配慮。
LR1 エネルギー	省エネを考慮した設備機器を設置し、一次エネルギー消費量を抑えるよう配慮 潜熱回収型給湯器エコジョーズの採用 共用部照明:LED採用
LR2 資源・マテリアル	住戸便器に省水型機器を採用
LR3 敷地外環境	南側の駐車場に、緑化ブロックを用いて緑化面積を積極的に確保することで、敷地外への熱的影響を低減するよう配慮した。
その他	